株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂7-10-11 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL: 0120-232-711（通話料無料）
上場取引所	東京証券取引所市場第1部
公告方法	当社HP（http://www.uchiyama-gr.jp）での電子公告により行う。ただし、やむを得ない事由により電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。

（注）1. 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。

2. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

ウチヤマホールディングス
UCHIYAMA HOLDINGS

〒802-0044
北九州市小倉北区熊本2丁目10番10号
内山第20ビル1F
TEL：093-551-0002（代表）
お問い合わせアドレス：http://www.uchiyama-gr.jp/cgi/form/form.cgi

HEART & EARTH

UD FONT
VEGETABLE OIL INK
ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C017219

株主・投資家の皆様へ

UCHIYAMA REPORT

｜ウチヤマ通信｜ 第9期 第2四半期 2014年4月 1日から 2014年9月30日まで

HEART & EARTH

ウチヤマホールディングス
UCHIYAMA HOLDINGS

証券コード 6059

Top Interview

トップ・インタビュー

東証一部上場を契機として、さらに　積極的な成長戦略を推し進めてまいります。

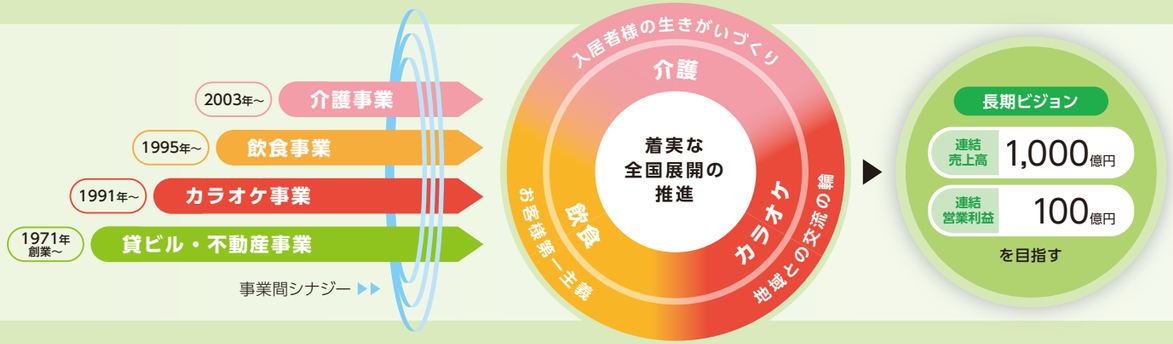
代表取締役社長
内山 文治

ごあいさつ

株主の皆様には、日頃より格別のご高配を賜り、心より御礼申し上げます。

当社は、2012年4月のジャスダック市場への株式上場から、2013年12月に東証二部、そして2014年9月に東証一部指定となりました。株主の皆様をはじめとしたステークホルダーのご支援の賜物と感謝申し上げますとともに、今後も皆様のご期待にお応えし、企業価値の最大化を図っていくことが使命であると認識し、全社一丸となって邁進してまいります。

引き続きご支援のほどお願い申し上げます。



当上期はカラオケ・飲食事業における天候不順等のマイナス影響もあり、増収減益となりました。

当上期の連結業績は、売上高が前年同期比9.2%の増収となる一方で、営業利益については同33.1%の減益となりました。

増収の主な要因は、各事業において施設・店舗が順調に増加しているためです。介護事業では、前期に開所した6施設と当上期に開所した2施設によって新たな入所者様が順調に加わっております。また、カラオケ事業では九州・中国・関東地方など全国で8店舗の新規出店を果たしました。さらに、飲食事業でも1店舗のリニューアルと1店舗の新規出店を行いました。

一方、営業減益となった要因として、一つは、介護事業における先行投資が利益を押し下げたためです。下期以降に開設予定の施設建築に係る費用に加え、本年2月と3月に開所した3施設の人件費や維持費等の固定費が費用先行となりました。しかし、これは積極的な施設立ち上げによるものであり、収益構造の悪化ではございません。また、もう一つの要因として、カラオケ事業と飲食事業において、集客面で天候不順等によるマイナス影響が加わったことがあげられます。

介護事業では、自治体の要請に基づきながら、地方へも積極的に開所してまいります。

介護施設の運営において最も重要となってくるのが“医療機関との連携”です。入所者様の安全安心な生活をお約束できる“充実した医療サポート”が可能であることを絶対条件として、開所エリアの選定を行っております。人口減少や地方の過疎化が避けられない今後は、医療の充実した人口集中エリアである東京・大阪・名古屋等の大都市圏を中心に展開していきたいと考えております。

また、当社の実績が評価され、自治体からの要請で立ち上げた物件も増えてまいりました。今後も要請があれば積極的に開所していきたいと考えております。

出店が加速するカラオケ事業では、当期末100店舗の達成を目指しております。

カラオケ事業では、新規出店が前期に6店舗、当期は10店舗（計画）としておりましたが、出店ペースが順調に加速しており、当期末には、当初計画を上回る100店舗を達成する見込みです。このうち、東京都内への出店が当期末には1店舗増の6店舗となります。今後は、首都圏攻略を一層推し進めてまいります。また、更なる競争激化に伴って増加傾向にある居抜き物件にも注目しながら、効率的な出店を図ってまいります。

会員数についても、子供からシニア層まで幅広い顧客層の支持を集め、ゴールド会員を含めて80万人を超えるまで増加し、顧客基盤の拡充が着実に進んでおります。

飲食事業では、海外にも目を向けた成長戦略にチャレンジしてまいります。

飲食事業では、国内においてはカラオケ店舗との複合出店の可能性を積極的に探っていきたいと考えております。2014年7月にオープンした居酒屋「西新再生酒場」は2階に位置し、1階にカラオケ店舗を開店しております。厨房を居酒屋の1カ所に集約するなど効率化を図っており、今後の複合出店の試金石にしていきたいと考えております。

また、当社グループでは、成長戦略の一環としてグローバル展開について検討してきましたが、その結果、介護とカラオケの2事業については今後も当面は国内に集中し、その一方で、飲食事業については、日本食ニーズが高まる東南アジア市場において大きな可能性があると判断しました。そして2014年8月、タイ王国に合弁会社「ボナー（タイランド）」社を設立し、11月に1号店をオープンしました。

売上高1,000億円企業を目指して、今後も積極的な経営を推進してまいります。

東証一部上場企業となったことを契機に、当社は、コーポレートガバナンスやコンプライアンスの一層の強化に努めております。特に、各事業の全国化の進展に伴って増加していく従業員の労務・業務管理体制の強化は、人づくりを基礎としたサービス、地域に根差したサービスを重視する当社にとって非常に重要な経営テーマであると考えております。

また、企業価値の継続的向上も経営者の使命であると認識しております。当社グループは、今後、M&Aについても積極的に検討しながら、長期ビジョンとして「売上高1,000億円企業」を目指し、全社一丸となって邁進してまいります。

収益の柱として介護事業とカラオケ事業が安定成長を持続

当上期(2015年3月期　第2四半期累計)は、主力の介護事業とカラオケ事業が増収基調を維持したことに加え、不動産事業が大幅な増収となり、連結売上高は前年同期比9.2%増の116億10百万円となりました。

経費面においては、コスト削減を進めることで経営の効率化を行い業績の安定化をはかりましたが、販管費率は前年同期比0.3ポイント上昇し6.2%となりました。この結果、営業利益は、同33.1%減の7億50百万円となりました。

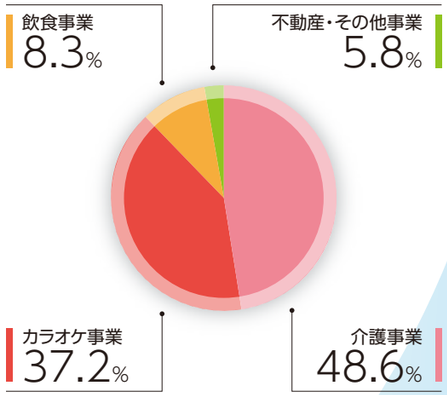
通期の業績見通しは、当初予想の通り、売上高245億50百万円(前年同期比12.8%増)、営業利益23億91百万円(同12.8%増)の増収増益を予想しております。

■ 2015年3月期第2四半期累計の連結業績

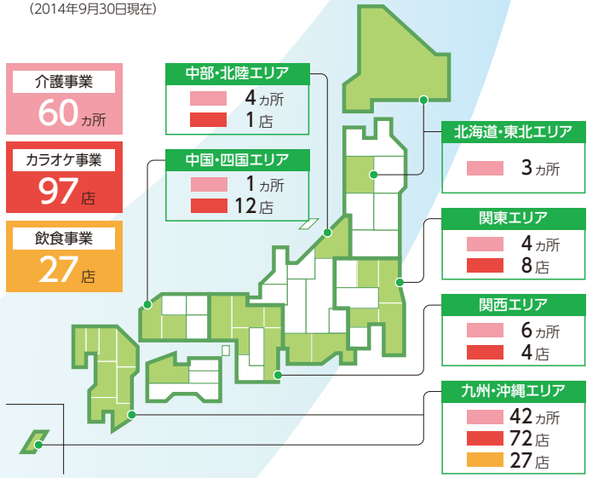
連結売上高　11,610百万円(前年同期比9.2%増)

連結営業利益　750百万円(前年同期比33.1%減)

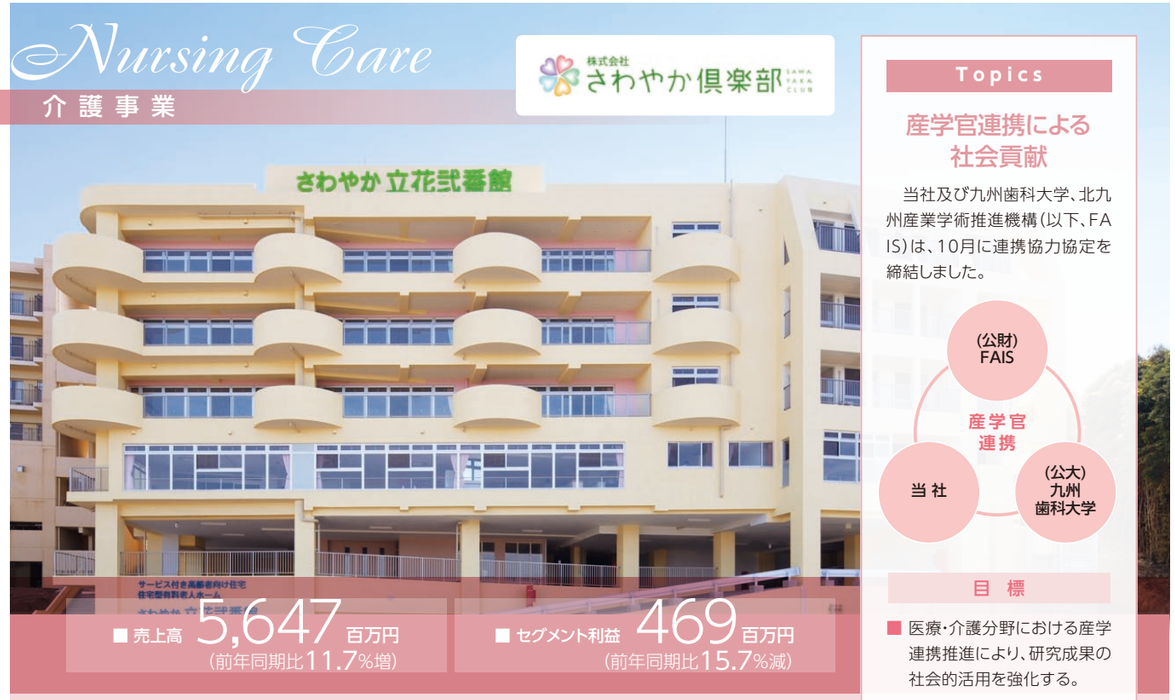
■ 売上構成比 (2015年3月期第2四半期累計)



■ 主力3事業の施設・店舗の展開状況
(2014年9月30日現在)



Nursing Care 介護事業



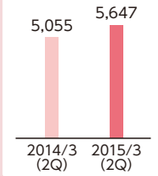
■ 売上高 5,647百万円 (前年同期比11.7%増)

■ セグメント利益 469百万円 (前年同期比15.7%減)

兵庫県に初進出するなど、介護事業の拠点範囲がさらに拡大しております。

当上期は、兵庫県への初進出を含め介護付有料老人ホーム2カ所を開設したほか、ショートステイ2事業所、デイサービスセンター1事業所を新規開設し、2014年9月末時点の営業拠点は60ヵ所121事業所となりました。また、既存施設では、空室を減らし、安定した入居を維持するため、近隣の病院や居宅介護支援事業所への訪問による連携の強化を推進しました。これらの結果、売上高は前年同期比11.7%増の56億47百万円となりました。

売上高の推移(百万円)



Topics

産学官連携による社会貢献

当社及び九州歯科大学、北九州産業学術推進機構(以下、FAIS)は、10月に連携協力協定を締結しました。

目　標

- 医療・介護分野における産学連携推進により、研究成果の社会的活用を強化する。
- 先端的かつ広い視野を有する人材の育成、新規技術の創出を目指す。

主な連携内容

口腔ケア分野において、より質の高いサービス提供とQOL(生活の質)向上に繋がる取り組みを更に推進。

Karaoke
カラオケ事業

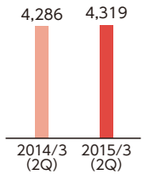
■ 売上高 4,319百万円（前年同期比0.8%増）

■ セグメント利益 664百万円（前年同期比23.9%減）

神奈川県と静岡県の2エリアに初進出させ、拠点数は間もなく全国100店舗超となります。

当上期は、神奈川県と静岡県への初進出を含め8店舗を新規出店し、2014年9月末時点の店舗数は97店舗となりました。また、新たにスマートフォン向けのアプリを開始し、モバイル会員の勧誘を行うなどリピート客の増加に努めました。集客面では天候不順等によるマイナスの影響が見られました。これらの結果、売上高は前年同期比0.8%増の43億19百万円となりました。

売上高の推移(百万円)



Topics

コロッケ倶楽部 スマホアプリ登場!

2014年7月より、コロッケ倶楽部専用のアプリが登場しました。メンバーズカードとして使用できる会員証機能のほか、多彩な機能を満載しています。

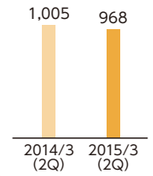
- 新着情報をいち早くゲット
- クーポン一覧/myクーポン、デジタルクーポンゲット
- 会員証機能を搭載
- 店舗検索/お気に入り店舗をブックマーク
- お知らせPUSH機能(設定画面から表示ON/OFFの切り替えができます)

Food Service
飲食事業

1店舗の新規出店を行うとともに、既存店の活性化に努めました。

当上期は、1店舗を新規出店し、2014年9月末時点の店舗数は27店舗となりました。タイムサービスの実施による集客の増加を図ったほか、法人顧客の獲得を目指し、企業訪問をするなどして宴会需要等の獲得に努めました。これらの結果、売上高は前年同期比3.7%減の9億68百万円となりました。

売上高の推移(百万円)



■ 売上高 968百万円（前年同期比3.7%減）

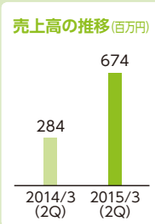
■ セグメント利益 57百万円（前年同期比40.8%減）

Real Estate / Other
不動産事業・その他

不動産事業が大幅な増収となりました。

物件売買及び賃貸の仲介業務等を行う不動産事業では前年同期比356.2%増と大幅な増収となりました。また、ホテル事業では宿泊客の増加、宴会の獲得、日帰り入浴の促進等に取り組みました。これらの結果、「不動産事業・その他」の売上高は前年同期比137.5%増の6億74百万円となりました。

売上高の推移(百万円)



■ 売上高 674百万円（前年同期比137.5%増）

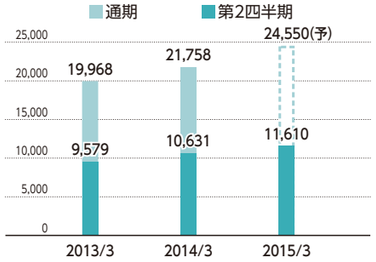
■ セグメント利益 34百万円（前年同期比1.6%増）

Consolidated Financial Highlights

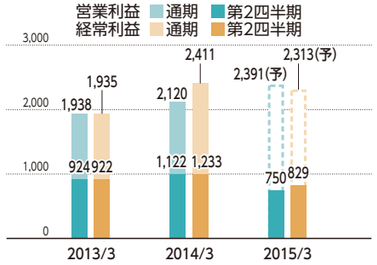
2015年3月期第2四半期累計 連結決算のご報告

収益の状況

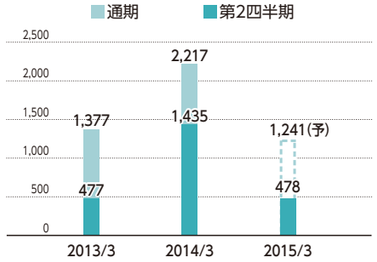
売上高 (百万円)



営業利益(左側)・経常利益(右側) (百万円)



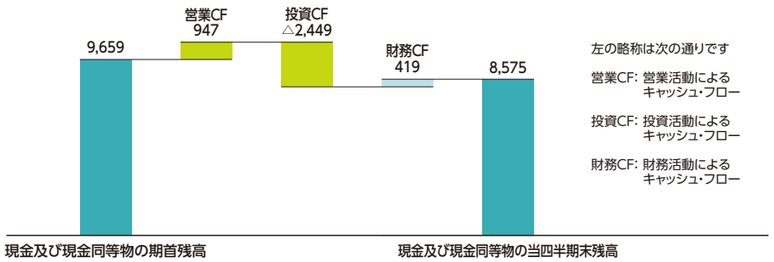
当期純利益 (百万円)



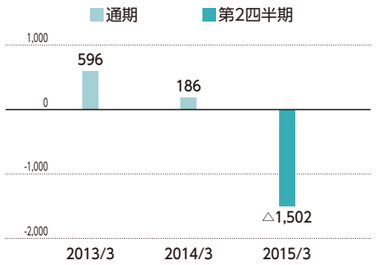
景気回復の兆候が見られた一方で、消費税率引き上げに伴う消費マインドの減退が懸念されており、個人消費の落ち込みが見られるなど先行きは依然として不透明な状況です。こうした環境下、当社グループは各事業において営業活動等を積極的に推し進めると同時に、事業間シナジーを向上させる取り組みにも注力しました。また、経費面においても、コスト削減を進めることで経営の効率化を図りました。この結果、当第2四半期累計期間の連結業績は、売上高116億10百万円(前年同期比9.2%増)、営業利益7億50百万円(同33.1%減)、経常利益8億29百万円(同32.7%減)、四半期純利益4億78百万円(同66.6%減)となりました。

キャッシュ・フローの状況

キャッシュ・フローの推移 (百万円)



フリーキャッシュ・フロー※ (百万円)

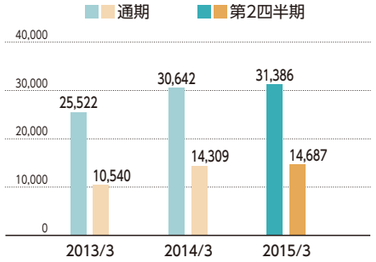


税金等調整前四半期純利益、減価償却費の計上、たな卸資産の減少などにより営業CFが9億47百万円の収入、定期預金の払戻による収入があった一方で有形固定資産の取得や定期預金の預入があり投資CFが24億49百万円の支出、長期借入金・割賦債務の返済による支出や配当金の支払などの一方で長期借入れによる収入があり財務CFが4億19百万円の収入となりました。この結果、当第2四半期期末における現金及び現金同等物の残高は、前期末に比べ10億83百万円減の85億75百万円となりました。

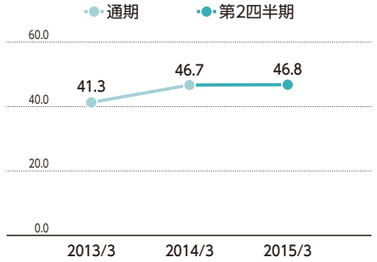
※フリーキャッシュ・フロー=営業CF+投資CF

財務状態

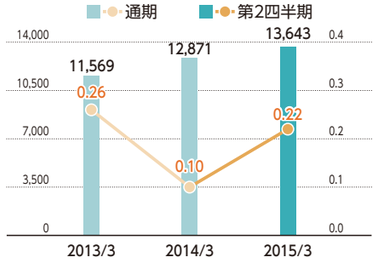
総資産(左側)・純資産(右側) (百万円)



自己資本比率 (%)



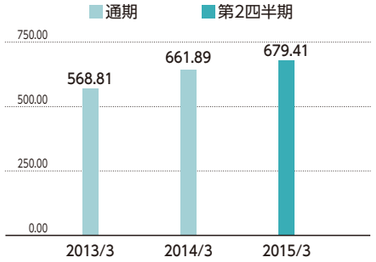
有利子負債残高・ネットD/Eレシオ (百万円/倍)



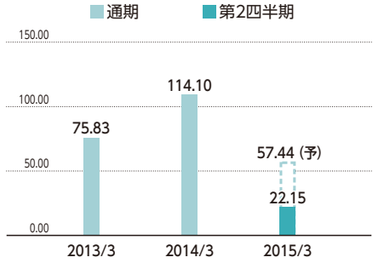
総資産は、現金及び預金、販売用不動産が減少した一方で、建物及び構築物、土地が増加したことにより、前期末比7億43百万円増の313億86百万円となりました。純資産は、四半期純利益の計上による利益剰余金の増加により、同3億78百万円増の146億87百万円となりました。これらの結果、自己資本比率は同0.1ポイント向上し46.8%となりました。なお、有利子負債残高は、同7億72百万円増の136億43百万円、ネットD/Eレシオは、同0.12ポイント増の0.22倍となりました。

1株当たり指標と株主の皆様への利益還元方針

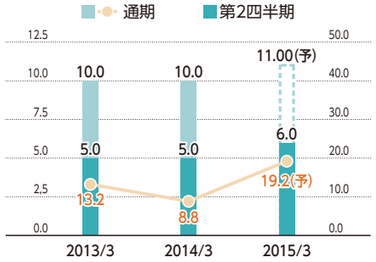
1株当たり純資産 (円)



1株当たり当期純利益 (円)



1株当たり配当金・配当性向 (円/%)



当社では、株主の皆様への利益還元を重要な経営課題の一つと位置づけ、安定配当の継続に努めております。当社は、2014年1月1日に1:4の株式分割を行っており、遡及修正後の金額で比較しますと、当第2四半期の配当金5円に、東証一部指定記念配当1円を合わせて6円となり、1円の増配にて実施させていただきました。

また、当期末の配当金は5円を計画、年間配当金は11円(記念配当含む)となる見込みです(遡及修正後の前期の年間配当金は10円)。

(注)1株当たり指標は、2014年1月1日付の株式分割(1:4)に伴う遡及修正値にて記載。

Shareholder's Information

株主様向け情報（2014年9月30日現在）

株式の状況

発行可能株式総数	58,400,000株
発行済株式総数	21,618,800株
株主数	4,884名

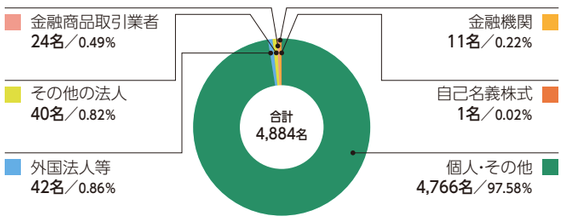
大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社ウチヤマフューチャー	6,400,000	29.60
内山 文治	2,210,020	10.22
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,075,000	4.97
内山 孝子	865,920	4.01
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	817,000	3.78
ザ バンク オブ ニューヨーク ノントリーティー ジャスデツク アカウント	699,700	3.24
ウチヤマホールディングス従業員持株会	490,100	2.27
ビービーエイチ フイデリテイ ピユーリタン フイデリテイ シリーズ イントリンシツク オプチユニテイズ フアンド	489,500	2.26
バンク オブ ニューヨーク ジーシーエム クライアント アカウント ジエイピーアールデイ アイエスジー エフイーエイシー	338,300	1.56
株式会社SBI証券	334,800	1.55

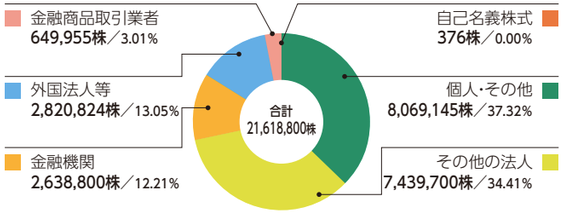
(注)持株比率は、自己株式(376株)を控除して計算しております。

株式分布状況

株主数別



株式数別



株主優待制度のご案内

当社は株主の皆様の日頃からのご支援に感謝するとともに、当社株式への投資魅力を高め、長期的に当社株式を保有していただくこと、さらには当社グループへのご理解をより深めていただくべく、株主優待制度を導入しております。より全国の株主の皆様に広くご活用いただくべく、お米券をご進呈させていただきます。

詳細につきましては、弊社ホームページをご覧下さい。

ご優待内容

『お米券』をご進呈

■ **対象となる株主**

毎年3月31日現在の当社株主名簿に記載または記録された4単元(400株)以上を保有されている株主様を対象としています。

■ **優待の内容**

お米券5kg分(1kg券×5枚)

■ **贈呈期間**

毎年6月の当社定時株主総会終了後、送付する決議ご通知に同封いたします。

会社概要

商号	株式会社ウチヤマホールディングス
設立	2006(平成18)年10月2日
代表者	代表取締役社長　内山 文治
資本金	22億2,293万円
従業員数	連結 4,018名(パート・アルバイトも含む)
事業内容	持株会社としてグループ会社の経営管理 グループ全体の経営戦略の立案
連結子会社	● 株式会社さわやか倶楽部 ● 株式会社ボナー
上場取引所 (証券コード)	東京証券取引所市場第1部 (6059)

グループ経営体制

- 持株会社　株式会社ウチヤマホールディングス
  - 連結子会社　株式会社さわやか倶楽部　介護事業ほか
  - 連結子会社　株式会社ボナー　カラオケ・飲食事業ほか
    - 海外合弁会社　Bonheure (Thailand) Co., Ltd.　レストラン事業ほか

役員

代表取締役社長	内山　文治	社外取締役	矢田　逸夫
専務取締役	生嶋　伸一	監査役	嶋井　太郎
専務取締役	竹村　義明	社外監査役	住川　守
専務取締役	歌野　繁美	社外監査役	岸本　進一郎
専務取締役	山本　武博		
取締役	吉岡　信之		
取締役	川村　謙二		
取締役	二村　浩司		

ホームページのご紹介

トップページ

http://www.uchiyama-gr.jp/index.html

IR情報

http://www.uchiyama-gr.jp/ir/index.html